

一般社団法人福島県造園建設業協会主催の第19回「みどりの文」の表彰式が行われますことに一言お祝いとともに審査員の講評を申し上げます。

今回も848通の全国から緑の文が届きました。特に絵手紙部門へ前回に続き滋賀県の近江兄弟社高の高校生からたくさんの応募をいただき、若者の応募が増えたことは、審査員一同大変うれしく思いました。全体として、テーマ性のある個性ある作品が評価されたように思います。

さて手紙部門では、コロナ禍から日常生活が戻り、猛暑の中での野菜作り、草取りへの思いをつづった手紙が多かったように思います。その中で最優秀作品に選ばれた「三世代で庭仕事」は、三世代で長靴を履き、野菜の手入れをする姿が目に見えぬほほえましい情景が表現された点が評価されました。全体には、そのシーンやストーリーが見えてくる作品が評価されました。

次に、絵手紙部門ですが、専門家のお力を頂き、庭に咲く花や実る野菜が生き生きと表現された絵手紙を選び、特に最優秀の作品は柿の枝と青い実そして文章の構成が大胆な構図となっている点が評価されました。さらに手紙ばなれといわれる今日ですが、滋賀県の高校生が若者らしい絵手紙を多数寄せていただいたことは、心強く、その中から優れた作品に審査員長賞を贈呈することといたしました。

フォト部門の審査については、専門家のお力を頂き、写真として技術的にすぐれているものを選択し、その中から福島の緑や花の風景とそこで憩う人々を切り取った意欲的な作品を選ばせていただきました。最優秀賞の作品「みどりの風の中」は緑の空間で子供3人の生き生きした姿をとらえた点が評価されました。

みどりの文事業が多くの方の応募をいただき発展されますよう期待して、審査員講評といたします。

一般社団法人日本造園組合連合会 参与 庭園技術・文化普及アドバイザー 井上花子